市民が主役

地域の歴史や文化をどこまでも深く学びたい

渡辺宏二（わたなべこうじ）さん

雑木林を歩くと鼻が大きくなる　おいしい空気を胸一杯吸わんが為（ため）　雑木林を歩くと目が大きくなる　木々の色付と空の青さを脳裏に焼き付けんが為　雑木林を歩くと耳が大きくなる　風になびく木々のささやきと鳥や虫達（たち）の歌を聞かんが為　雑木林を歩くと心が大きくなる　そこには自由とやすらぎと夢が存するが為

御殿山緑地保全地域を散策時に作詩

「私たちは、どこの川の水を飲んでいるのでしょう？」「清瀬駅と秋津駅は、どちらが古いと思いますか？」と、楽しそうにクイズを出す渡辺さんは、疑問に思うと自分の目で見て調べて学びます。知識が豊富で、雑学や豆知識をたくさんお持ちです。鉄道にも興味があり、数年前に博物館友の会主催の、フォトミュージアム（清瀬をテーマとした写真入り解説文）で「西武鉄道のあゆみ」を発行し、講演会も行いました。

今号では、「なぜ？」の答えを学ぶことが大好きな、渡辺宏二さんにお話を伺いました。

2月15日で68歳を迎える渡辺さん。清瀬郷土研究会に約10年間所属しました。

趣味の旧所巡りの合間に、市の民俗行事と民俗芸能をまとめた、清瀬市歴史・文化双書1「清瀬の民俗行事と民俗芸能」の制作に協力したり、キヨセ ケヤキ ロードギャラリーの清掃活動などを行ったり、約半年前からは清瀬ボランティア運営委員会の理事を務め、イベントの際には自転車の整理などを担当し来場者を歓迎しました。

「歩いて旧所巡りをしたいから」と、体力作りもかねて、週2回の硬式テニスや、階段を2段飛びで7階まで駆け上がるなど、若々しく気さくな方です。

「清瀬の民俗行事と民俗芸能」。郷土博物館などで販売・一冊二千円

郷土研究会とは!?

―郷土研究会とはどのような活動をする会ですか？

会では、「清瀬をもっとよく知りたい」という思いで、清瀬や周辺地域の歴史などを学びます。現在の会員は20人程。活動の中心は歴史に傾くことが多いです。昨年は、橋と坂の名前の由来を調べ、以前は「清瀬の人はどこの川の水を飲んでいるか」ということを切り口に、水道の歴史を調べることになり、実際にお茶の水にある水道博物館や東村山浄水場に見学に行きました。

入会のきっかけは市民文化祭です。入会前は歴史に興味があったわけではないのですが、川が好きでした。市民文化祭で「空掘川の源流を訪ねる」というテーマの催し物に魅（ひ）かれて見学したところ、郷土研究会に誘っていただき、どんどん活動が広がっていきました。

疑問を解決していく楽しさ

―活動ではどんなところが楽しいですか？

「分かっているようで実は分かっていないことに気が付き、その疑問を解決していく楽しさ」が面白いです。また、自分の知識の少なさを痛感しています。知らないことを知った時の喜び、それが本当に大きい！　この年になって思いますが、もっと昔にこういう意識があればノーベル賞を目指していたかもしれないです（笑）。

とにかく、若いうちに「なぜ？」を解決しようとする前向きな意識を持つことは素晴らしいことだと思います。

趣味は名所・旧所巡り

―名所巡りをされていると伺っています。

約9年かけて、都内の名所・旧所を巡りました。今は、檜原村に通っています。檜原村は自然がとても豊かで、「日本の滝100選」に選ばれた払沢（ほっさわ）の滝があり、とても美しいのです。

また、9年前とはものの見方が変わってきたので、再度都内を巡ったりもしています。先日は、荒川区に行き、寺を2か所まわりました。寺・墓には著名人の歴史があって、更に詳しく調べるとすごいことが分かってきます。そんなことを「もっともっと深く知りたい！」と思い、名所巡りを始めました。生きているうちに東京の名所・旧所は制覇したいです。

―他にも名所巡りでの楽しみはありますか？

甘いものが好きなので、「東京五つ星の手みやげ」（著者 岸朝子）という本を買い、その場所を名所・旧所の地図に記し、全ポイントを巡り食べ歩きました。そういうのも楽しみの一つです。都電巡りの旅もしましたし、野火止用水を多摩川の取水せきから志木の市役所まで歩いたこともあります。「野火止の用水巡り われ思う いにしえびとの 知恵のいだいさ」などと興じながらの散策は心がうきうきします。

清瀬のお気に入りの場所

―市内外の散策や郷土を学ぶなかで、市外にはないような清瀬の特徴・場所はどんなところですか？

都心に近いのに自然が多く残っているということでしょうか。市内の公園などでは四季の変化を感じることができ、新緑の時期、けやき通りでは緑に覆われた木々の葉のすき間から真っ青な空が見えます。他にも、至る所に美しい場所がたくさんあると感じています。

私はホタルが好きで、金山緑地公園とせせらぎ公園によく行きます。市内にホタルが生息しているというのはすごいことです。ホタルが出てくる時期になると、約半月前から、夜に金山緑地公園に出掛けて心待ちにしています。いろいろな方がホタルが生息できる環境を守ってくださっているおかげで、幻想的なゲンジボタルが見られるのです。美しい自然も、それを守る人々も清瀬の誇りですね。

ホタルが生息するせせらぎ公園

清瀬けやきロードきれいにし隊（たい）

―キヨセ ケヤキ ロードギャラリーの清掃活動にも参加されているんですね。

「清瀬けやきロードきれいにし隊」と名付け、隊員で全23基の彫刻を清掃しています。彫刻の台座がピカピカしてると見ていて気持ちが良いですし、鳥のフンが彫刻に落ちていることがあるので、皆で清掃しています。現在活動しているのは数人ですので、皆さんもぜひ気軽に参加してください。（第2・4土曜日午前8時～9時30分ごろまで・郷土博物館裏に集合）

ボランティア活動をしているのは、今とても楽しい生活を送らせてもらっているので、せめてもの恩返しをさせていただきたいという気持ちからです。好きな言葉の一つに「お陰さま」という言葉があるのですが、文字通り「陰」に対する感謝の気持ちだと考えます。以前は彫刻の前を通っても、「きれいだな」で終わっていましたが、そのきれいな彫刻の裏には、清掃ボランティアの方の努力があるんだと気が付くようになりました。「陰」に対する感謝を大切にしたいですし、これからも表に立つよりは「陰」で皆さんのお役に立ちたいなと思います。

キヨセ ケヤキ ロードギャラリーを楽しく清掃する渡辺さんら

小さな半歩を踏み出す

―とても積極的に活動されていますが、高齢になるとどうしても家に閉じこもってしまいがちな方も多いですね。

年をとると、笑って話せる時間は本当に貴重です。老後は楽しい時間を多く過ごしてほしい。そこで団塊の世代の方などへ、「まず半歩、踏み出してみてください」と言っています。大きな一歩ではなく、小さな半歩からで良いのです。

また、遠方に友達がいても通うのが難しくなりますから、定年後は地元に根を下ろしてほしいです。突然、地域の輪に入るのは勇気がいりますから、今のうちから人とのつながりを築きましょう。市民活動センターや市報でもいろいろな催し物が紹介されているので、自分に合ったものを選んでみてください。

「なぜ？」を大切にしてほしい

―次代を担う若い世代の方へは、どんなことを伝えたいですか？

物事に対して、「どうしてだろう？」という疑問を持つのは大切なことです。小さな子どもが「なぜ？」と発言するのを聞くとついうれしくなってしまいます。その気持ちが物を知る根本じゃないかと思います。また、インターネットで簡単に調べることはできますが、たまには辞書を引いてください。自分で調べると記憶に残りますし、辞書を引く回数が多いとそれだけ自分の知力を実感します。「知らない」ということ自体に気が付いていないということもよくありますよね。興味を持ったことがあったら一歩進んで深く調べてみてはいかがでしょうか。思わぬ発見があるかもしれません。

今後は、東京の旧所巡りを制覇し、埼玉の方にも赴きたいです。皆さんも趣味を見つけてみませんか。